様式 2

番号 ＼ 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	61・啓林館	第 1 学年 第 2 学年 第 3 学年	理科・732　理科・733 理科・832　理科・833 理科・932　理科・933	未来へひろがるサイエンス1　未来へひろがるサイエンス1マイノート 未来へひろがるサイエンス2　未来へひろがるサイエンス2マイノート 未来へひろがるサイエンス3　未来へひろがるサイエンス3マイノート

取扱内容 （学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等）	○　第 1 分野 第 1 学年では、空気と水の境界での光の進み方を調べる実験などの活動や、エタノールが沸騰する温度を調べる実験、第 2 学年では、電熱線の発熱量が何によって決まるのかを調べる実験や、化学変化の前後の質量の変化を調べる実験などの活動、第 3 学年では、物体のエネルギーと速さの関係を調べる実験などの活動や、うすい塩酸を電気分解して発生する気体について調べる実験などの活動、人間の活動が環境にどのような影響を与えてきたかを調べるなどの活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　第 2 分野 第 1 学年では、光合成による二酸化炭素の出入りを調べる実験やシダ植物の体のつくりの観察などの活動、火山岩や深成岩のつくりの観察などの活動、第 2 学年では、無脊椎動物の体のつくりの観察などの活動、露点の観測結果を基に空気中の水蒸気量を推測する実験などの活動、第 3 学年では、遺伝子がどのように伝わるかを調べる実習などの活動、月の形や位置の変化の観測などの活動、川の生物の生息状況から水質を調べるなどの活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　知識・技能の習得、活用、探究への対応 第 1 学年では、物質の性質を手がかりに物質名を調べる実験のレポートを作成するなどの知識・技能を活用する学習、地層の重なりから分かる大地の変動について理解するなどの発展的な学習、第 2 学年では、気温や湿度、気圧の変化と天気の変化を調べる観測のレポートを作成するなどの知識・技能を活用する学習、原子がどのように結合して分子となるかについて理解するなどの発展的な学習、第 3 学年では、分裂している細胞の染色体の形や位置の観察のレポートを作成するなどの知識・技能を活用する学習、電池の一極になる金属はどのように決まるのかについて理解するなどの発展的な学習が取り上げられている。
内容の構成・排列、分量等	○　内容の構成・排列 第 1 学年では、地震が起こる仕組みや揺れの伝わり方についての活動の後に、火山活動と火成岩についての活動を取り扱い、第 2 学年では、原子や分子についての活動の後に、化学変化を表す化学式についての活動を取り扱い、第 3 学年では、太陽系や銀河系についての活動の後に、太陽や恒星の動きについての活動を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○　内容の分量 第 1 学年～「第 1 分野」は 130 ページ、「第 2 分野」は 120 ページ、「資料等」は 104 ページであり、総ページ数は 354 ページで、前回より約 13%増となっている。 第 2 学年～「第 1 分野」は 142 ページ、「第 2 分野」は 124 ページ、「資料等」は 100 ページであり、総ページ数は 366 ページで、前回より約 17%増となっている。 第 3 学年～「第 1 分野」は 140 ページ、「第 2 分野」は 126 ページ、「第 1 分野と第 2 分野の共通ページ」は 14 ページ、「資料等」は 110 ページであり、総ページ数は 390 ページで、前回より約 22%増となっている。
使用上の配慮等	○　コラム「ぶれいく time」などにおいて、日常生活との関連や科学の話題を紹介し、科学の有用性などを伝えたり（全学年）、コラム「科学偉人伝」において、科学者の中谷宇吉郎と関連させて冬の十勝岳の様子を紹介したり（第 2 学年）するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○　巻末の「きみも科学者」において、日常生活と関連した課題研究や自由研究のテーマを掲載したり（全学年）、「マイノート」において、実験・観察を整理する内容と学習内容を復習できる確認問題や活用問題を設けたり（全学年）するなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう工夫がなされている。 ○　生徒がこれまでに学んできたことを確認することができるよう、「ふり返り」マークを付し、既習事項を示したり（全学年）、安全に対して配慮が必要な場面では、該当する箇所に「注意」マークを付し、注意文を朱字で掲載したり（全学年）するなど、使用上の便宜が図られている。
その他	○　北海道に関連のある資料は、「名寄市のサンピラー」など、第 1 学年で 15 箇所（うち上川管内 2 箇所）、第 2 学年で 12 箇所（うち上川管内 2 箇所）、第 3 学年で 12 箇所取り上げられている。 ○　観察・実験においては、目的意識をもって取り組めるよう「目的」を新設し、方法は「ステップ」でまとめ、活動の概要について、生徒が理解できるように工夫されている。 ○　付録の青色のカラーユニバーサルフィルターを使って、全ての生徒が基本的な用語などの学習事項の定着に向けて反復学習ができるように工夫されている。